

〈目的〉豊富な物質と情報に囲まれて育った現代の男子中学・高校生のファッション意識の特徴を明らかにするために、本報では男子中学・高校生向けのファッション雑誌より代表的なファッションスタイル写真を選び、それらのスタイルイメージを測定する。さらに第1報のファッション意識の因子分析をもとに被験者を層別し、彼らのスタイルイメージとファッション知識について考察する。

〈方法〉調査対象者及び調査時期は第1報と同様である。服装スタイルのイメージはファッション雑誌から抜粋した写真6種類について、SD評価（15形容詞対、4段階尺度）を行った。次に、第1報のファッション意識の因子分析で抽出されたおしゃれ因子に注目し、この因子得点の高い人、中程度の人、低い人の3グループに被験者を層別し、6種類の服装スタイルにつきSD評定平均値を3グループごとに求め、これを観測回数として因子分析をした。

〈結果〉因子分析により規範性、ファッション感、ヤング・アダルト感の3個の基本的因子が抽出された（固有値1.0以上、バリマックス回転、累積因子寄与率86.22%）。各因子の因子得点の差から考察すると、高校生の方がおしゃれ感覚を持ち始めている傾向にある。服装スタイル別では、中学生はジーンズに対してファッション感の因子得点が高く、高校生はスーツに対して規範性の因子得点が高かった。また、ファッション知識に関しては、雑誌名、コロン名について高校生が20%、中学生では50%以上が「知らない」と回答した。以上より、中学・高校生のファッション意識の相違をみる事ができた。